



# 日本財団母乳バンク紹介

2026年度概要資料

## 1. 母乳バンクとは

- 母乳バンクの概要
- なぜ母乳バンクが必要なのか
- 世界における母乳バンクの概況と国内の母乳バンクの歩み

## 2. 日本財団母乳バンクについて

- 主な活動内容と特徴
- 活動実績

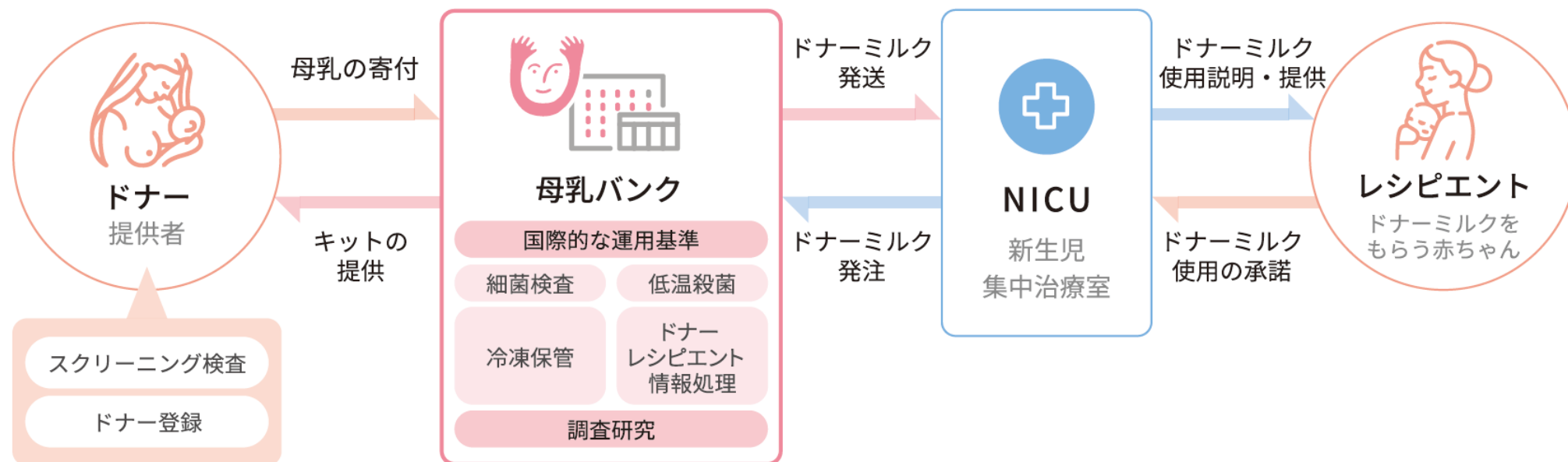
## 3. 課題と今後の施策

# 1. 母乳バンクとは

# 母乳バンクとは

母乳バンクとは、

- ご自身のお子さんが必要とする以上に母乳が出るドナーよりご寄付いただいた母乳を、
- 適切に低温殺菌処理、細菌検査、冷凍保管し、
- NICU（新生児集中治療室）の要請に応じて、「ドナーミルク」として
- 早産・極低出生体重（体重1,500g 未満）の赤ちゃんに提供する仕組みです。



## なぜ母乳バンクが必要か？①

### 小さく生まれた赤ちゃんを、母乳にしかない成分が守る

超低出生体重児のNICU入院中の死亡率9.2%(2015)

→原因：感染症21.3%、壊死性腸炎・消化管穿孔16.2%（死亡率58%）

壊死性腸炎・慢性肺疾患・未熟児網膜症・遅発型敗血症等の罹患リスクが高く、長期的にも将来の認知機能や運動機能への影響がある。

#### 母乳

- 栄養素（タンパク質、脂質等）＋生理活性物質slgA,ラクトフェリン等の免疫物質、ヒトミルクオリゴ糖等、人工乳にはない成分
- 細菌やウイルスに対する感染防御作用、ビフィズス菌増殖作用
- 壊死性腸炎の予防に寄与／生後早期に母乳を腸にあげることで、病気（特に目と肺）が減らせる

#### ドナーミルクの効果

- くすり（免疫力向上効果）→疾病予防、長期予後の改善
- 静脈栄養期間の短縮・入院期間の短縮→医療費削減、家族の負担減

（参考）

「もし、十分な支援によっても自母乳が得られない、児に与えられない場合にはドナーミルクを用いる」（「早産・極低出生体重児の経腸栄養に関する提言」2019年7月 日本小児科学会）

## なぜ母乳バンクが必要か？②

厚生労働省「人口動態統計」	1980年	2019年
出生数	約158万人	約87万人
極低出生体重児(1500g未満)	5,972人	6,467人

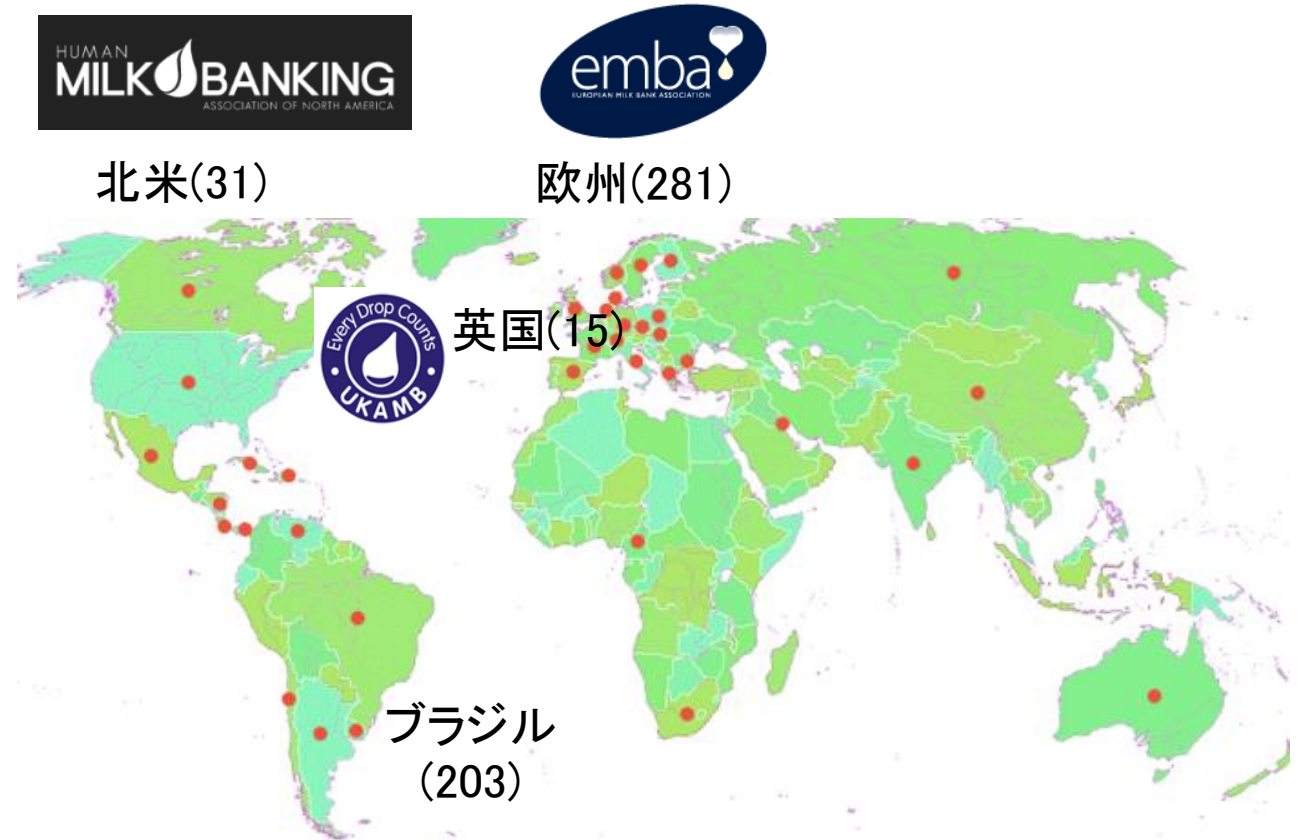
- 母乳バンクが対象としている極低出生体重児は年間約**6,500人**産まれる
- そのうち、理想的とされる生後24時間以内に経腸栄養を始めるのに母親以外の母乳を必要としている赤ちゃんは推計約**5,000人**

※早産で体調が整わない、死去、抗がん剤治療、感染症の隔離等様々な理由

⇒**母親から母乳を得られない5,000人の赤ちゃんにドナーミルクが必要**

# 世界における母乳バンク

- 1909年 最初の母乳バンクがウィーンで誕生
  - 1919年 アメリカ最初のバンク設立（ボストン）
  - 1985年 北米母乳バンク協会設立
  - 2010年 欧州母乳バンク協会設立（ミラノ）
- 2022年時点、66か国・750施設以上



<https://www.internationalmilkbanking.org/index/worldbanks/>

# 日本における母乳バンクの歩み

日本では**日本財団母乳バンク**と**日本母乳バンク協会**の2つの法人が「**日本橋母乳バンク**」、「**日本財団母乳バンク**」・「**藤田医科大学病院日本財団母乳バンク**」の3つの母乳バンク拠点を運営。

- 2013年6月 昭和大学医学部小児科学教室にて、母乳バンク準備室開設
- 2014年4月 厚生労働省研究班【分担研究 母乳バンクの安全な運用】（～2017年3月）
- 2014年7月 「昭和大学江東豊洲病院母乳バンク室」開設
- 2017年5月 一般社団法人日本母乳バンク協会設立
- 2019年7月 日本小児科学会提言
- 2020年4月 厚生労働省研究班「ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究」（～2023年3月）
- 2020年9月 「**日本橋母乳バンク**」（運営：日本母乳バンク協会）開設
- 2021年3月 昭和大学江東豊洲病院母乳バンク室閉室
- 2021年4月 一般財団法人日本財団母乳バンク設立
- 2022年4月 「**日本財団母乳バンク**」（運営：日本財団母乳バンク）開設
- 2023年4月 こども家庭庁研究班「ドナーミルクを必要とする児に普及するために必要なエビデンスを構築するための研究」（～2026年3月）
- 2023年6月 「**藤田医科大学病院日本財団母乳バンク**」（運営：日本財団母乳バンク）開設

		
代表者	水野克己（昭和医科大学医学部小児科学講座主任教授）	
運用	<a href="#">母乳バンク運用基準（第4版）</a>	
施設	<p><b>新規</b> ※2021年度以降の新規登録施設に対応</p>	<p><b>既存</b> ※2021年度までの契約施設への対応</p>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドナーミルクの製造、配送</li> <li>ドナーミルクの分析、研究</li> <li>周知啓発</li> </ul>	ドナーミルクの製造

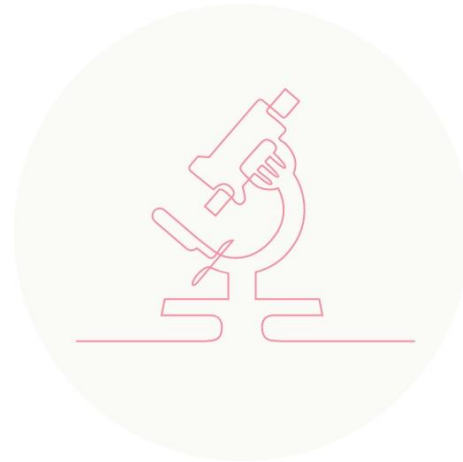
※その他、賛助会員規程、施設規模、職員数、財源などが異なります。

## 2. 日本財団母乳バンクについて



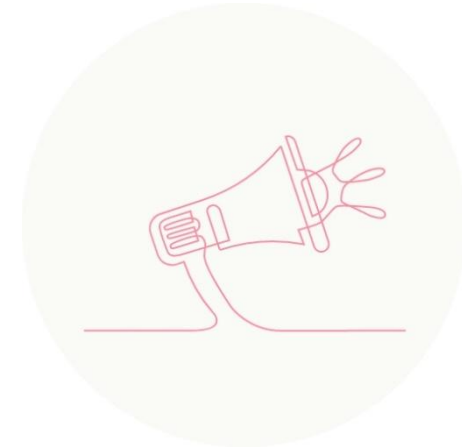
## ドナーミルクの安定供給

国内最大規模の母乳バンク室（82.1㎡）のクリーンルームでドナーミルクの低温殺菌処理および冷凍保管を行い、ドナーミルクを安定的に提供できる体制を構築します。



## ドナーミルクの安全性と効果の調査研究

早産児・極低出生体重児の成長を促すドナーミルクの栄養価や生理活性物質量を測定分析し、効果的なドナーミルクを提供できる研究体制を構築します。



## 母乳バンクに関する周知啓発

より多くの赤ちゃんの命を守るために、母乳バンクの活動をウェブサイトやイベントなどで発信、カンファレンスや学会の共催で研究成果も積極的に発表していきます。



## ドナーミルクの安定供給

国内最大規模の母乳バンク室（82.1㎡）のクリーンルームでドナーミルクの低温殺菌処理および冷凍保管を行い、ドナーミルクを安定的に提供できる体制を構築します。





## ドナーミルクの安全性と 効果の調査研究

早産児・極低出生体重児の成長を促すドナーミルクの栄養価や生理活性物質量を測定分析し、効果的なドナーミルクを提供できる研究体制を構築します。



# 日本財団母乳バンクの特徴



## 母乳バンクに関する周知啓発

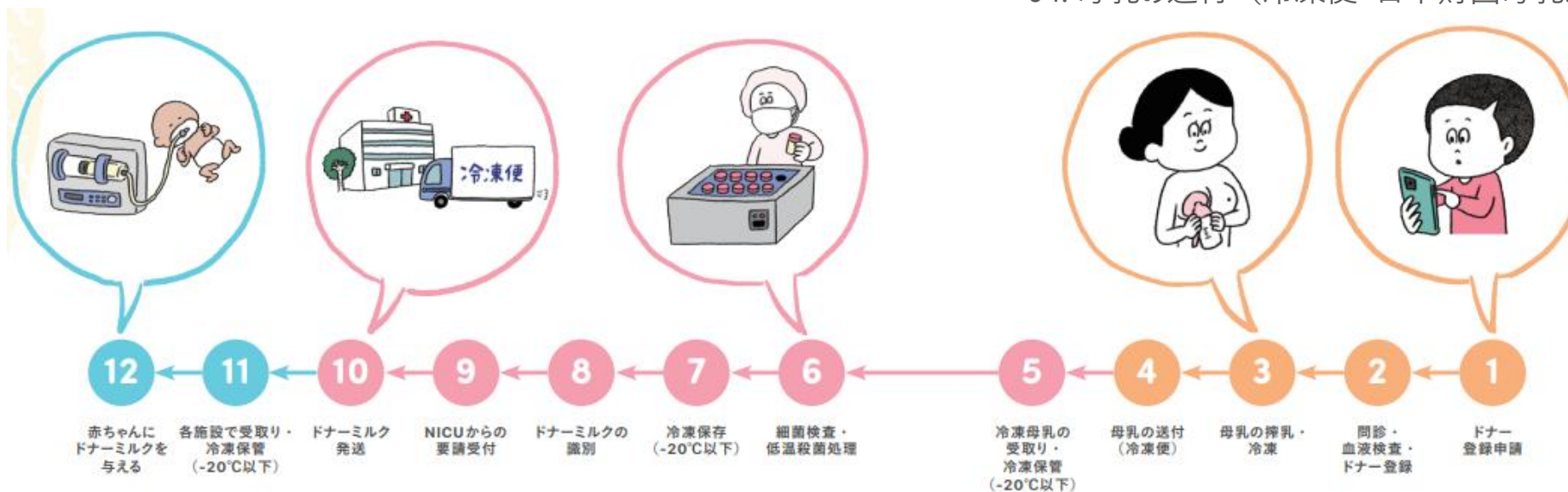
より多くの赤ちゃんの命を守るために、母乳バンクの活動をウェブサイトやイベントなどで発信、カンファレンスや学会の共催で研究成果も積極的に発表していきます。



# ドナーミルクが赤ちゃんに届くまで

## ■NICU→赤ちゃん

11. ドナーミルクの受取り・冷凍保管(-20°C以下)
12. 保護者の承諾を得た赤ちゃんにドナーミルクを与える



## ■ドナー→日本財団母乳バンク

01. ドナー登録申請 (フォーム送信等)
02. ドナー登録施設での問診・血液検査→正式ドナー登録
03. 自宅での搾乳・冷凍
04. 母乳の送付 (冷凍便・日本財団母乳バンクへの着払)

## ■日本財団母乳バンク→NICU

05. 冷凍母乳の受取り・冷凍保管(-20°C以下)
06. 事前細菌検査→低温殺菌処理→事後細菌検査
07. 冷凍保存 (-20°C以下※搾乳日から12カ月で廃棄)
08. ドナーミルクの識別
09. NICUからの要請受付
10. ドナーミルク発送 (冷凍便)

# 活動状況：今年度の活動実績

活動データ	【2025年度】 2025.4～2026.3 (12か月)	【2024年度】 2024.4～2025.3 (12か月)	【2023年度】 2023.4～2024.3 (12か月)
ドナー登録申請数	745 人	648 人	555 人
ドナー登録完了数	507 人	456 人	356 人
冷凍母乳受領件数	1835 件	1287 件	1016 件
冷凍母乳受領量	3358.278 ℓ	2543.555 ℓ	1840.013 ℓ
低温殺菌処理量	2343.645 ℓ	1758.440 ℓ	1325.790 ℓ
発送施設数	80 施設	67 施設	49 施設
発送量	1555.21 ℓ	1216.48 ℓ	822.42 ℓ
提供赤ちゃん人数(新規)	690 人	530 人	314 人
ドナーミルク使用NICU数※1	82 施設	67 施設	47 施設

※1 登録のあるドナーミルク使用NICU数

※2025年10月14日:2024年度の発送量、提供赤ちゃん人数(新規)を訂正

## 【参考】国内母乳バンク活動の推移

2つの母乳バンク（日本母乳バンク協会と日本財団母乳バンク※）の活動推移（2025年3月末現在）

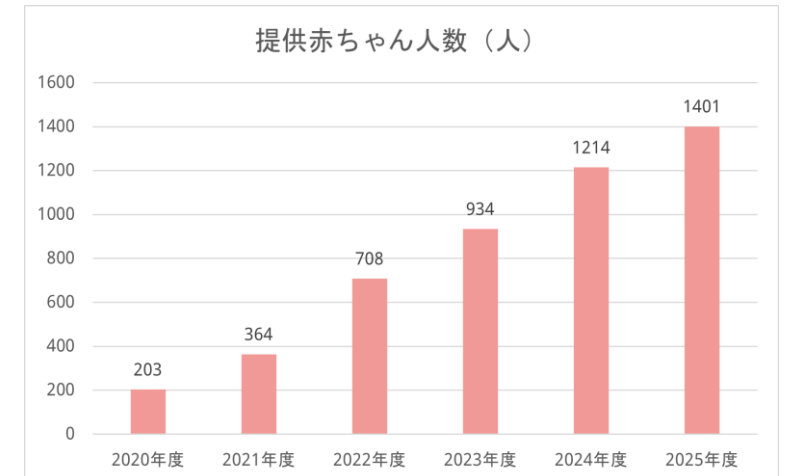
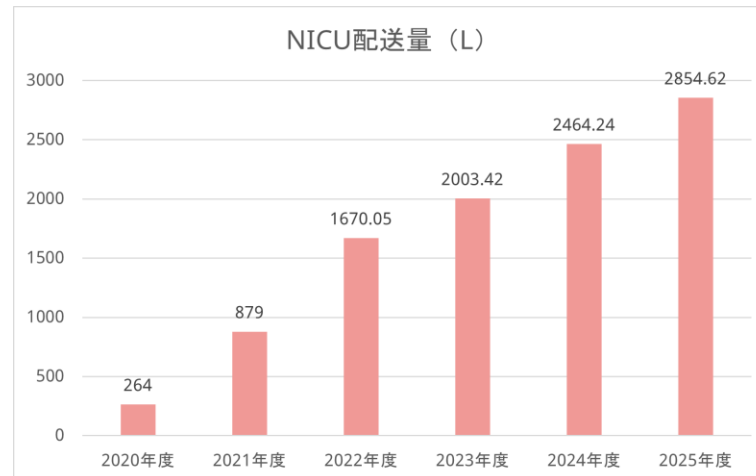
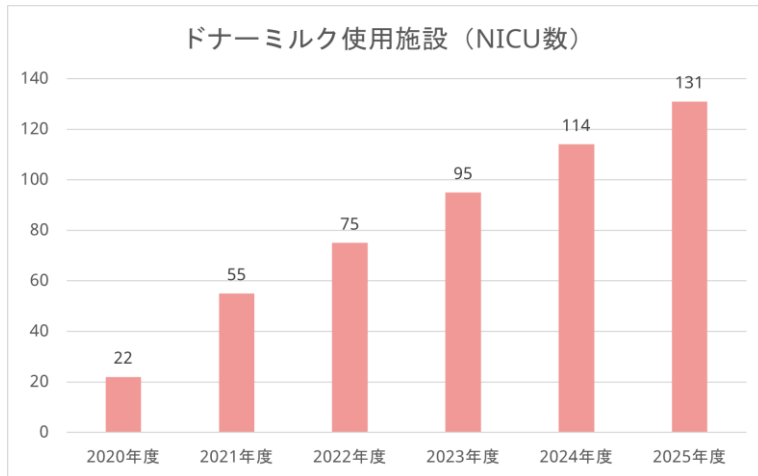
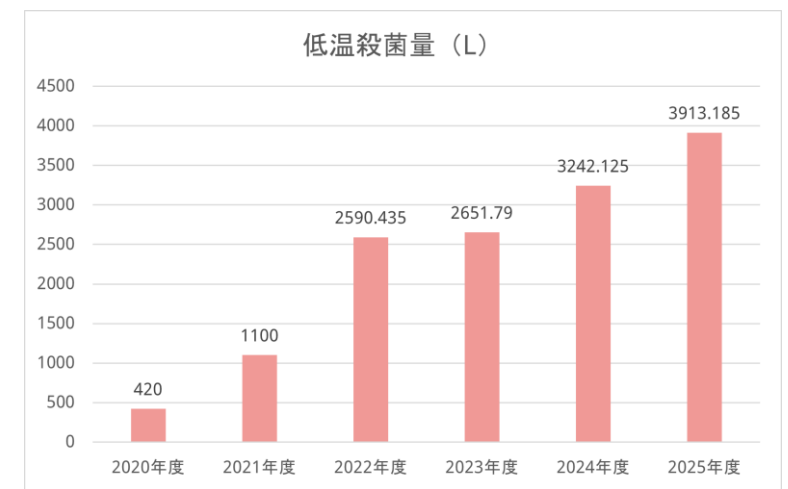
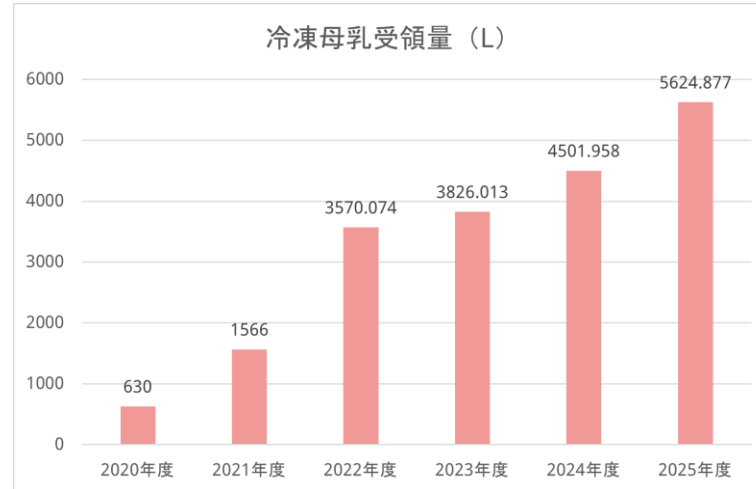
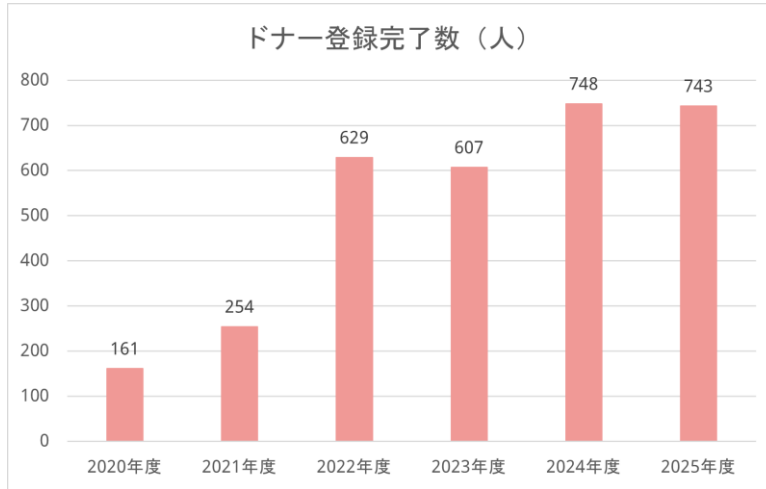
※日本財団母乳バンクは2021年度法人設立2022年度より稼働開始

年度	ドナー登録完了数 (人)	冷凍母乳受領量 (L)	低温殺菌量 (L)	NICU配送量 (L)	提供赤ちゃん人数 (人)	ドナーミルク使用施設 (=NICU数)
2018年度	15	279.000	107.000	54.50	66	1
2019年度	24	147.000	147.000	73.80	112	11
2020年度	161	630.000	420.000	264.00	203	22
2021年度	254	1,566.000	1,100.000	879.00	364	55
2022年度	629	3,570.074	2,590.435	1,670.05	708	75
2023年度	607	3,826.013	2,651.790	2,003.42	934	95
2024年度	748	4,501.958	3,242.125	2,464.24	1,214	114
<b>2025度</b>	<b>743</b>	<b>5,624.877</b>	<b>3,913.185</b>	<b>2,854.62L</b>	<b>1,401</b>	<b>131</b>

※:「冷凍母乳受領量」「低温殺菌処理量」は1ml単位で集計、「NICU配送量」はドナーミルクを30ml, 80ml, 150mlの3種類のボトルで提供しているため10ml単位で集計

※2025年10月14日：2024年度の発送量、提供赤ちゃん人数(新規)を訂正

# 【参考】母乳バンク活動の年度推移グラフ



※2020～2021年度は日本母乳バンク協会のみ、2022年度から2025年度は日本財団母乳バンクと日本母乳バンク協会の合算データ

※「ドナーミルクを使用した赤ちゃん人数」年度推移は、2023年度までは日本財団母乳バンク延べ人数および日本母乳バンク協会ユニーク数で集計し、2024年度より両バンクともユニーク数での集計で公表

### 3. 現状の課題と今後の施策

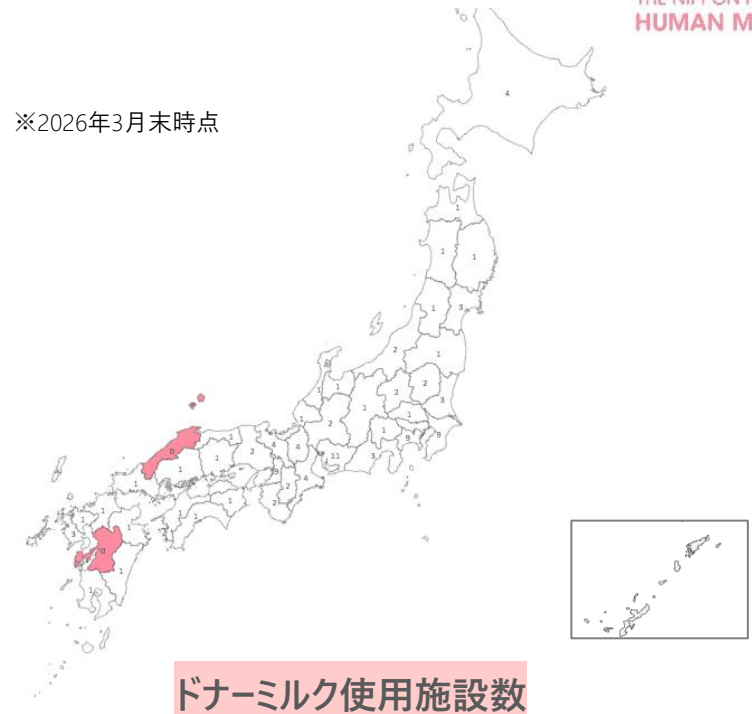
# 課題と施策①：使用施設（導入するNICU）の拡大

## 全国45都道府県 130施設（NICU）がドナーミルクを利用

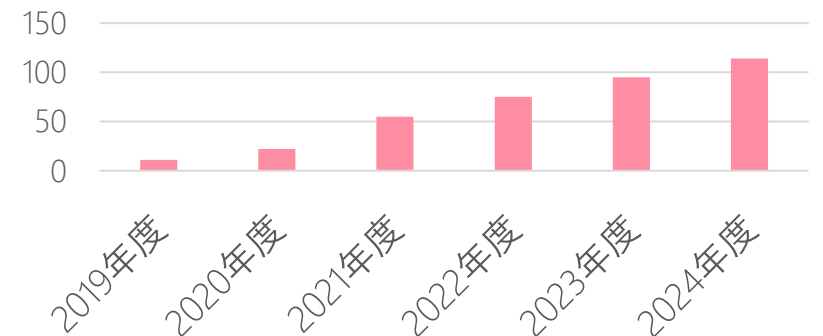
※2026年3月末時点

※日本財団母乳バンク82施設、日本母乳バンク協会49施設

- 総合周産期母子医療センターのカバー率：約71.4%
- 残り2県が未導入（島根県、熊本県）



ドナーミルク使用施設数



### 【課題への対応】

- 学会・カンファレンスで医療従事者への認知度向上および営業活動
- 各自治体や行政へのアプローチ（視察対応、知事面談等）
- トライアルができる仕組みの構築

→日本財団母乳バンクでドナーミルク使用施設登録の場合、  
初年度無償・無制限でドナーミルクを提供。

また、2年度目以降も、年間2リットルまでは無償提供

## 課題と施策②：ドナー登録施設不足

### ドナー登録施設数：全国25都道府県／59施設（※）

日本財団母乳バンク：30施設、日本母乳バンク協会：29施設 ※両バンク共通施設の重複、受入限定の施設を除く

ドナー登録施設のない都道府県 ※NICUのみ、入院歴ありのみを対象とする施設を除く

- 東北（青森県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）
- 関東（群馬県）、北陸（新潟県、富山県、石川県、福井県）
- 中部（三重県）、近畿（大阪府、和歌山県）、
- 中国（鳥取県、山口県）、四国（徳島県、愛媛県、高知県）、
- 九州（佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県）

#### 【課題への対応】

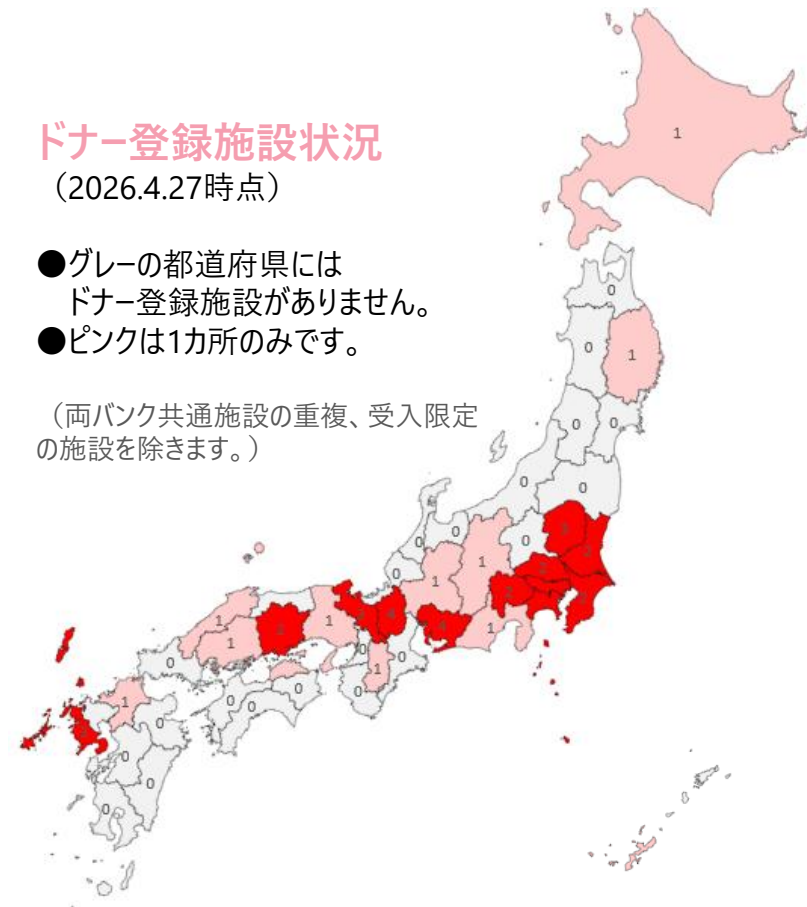
- 「産後1カ月健診後」＝生後間もない児のお母さんが問診に行くことになるため、上記の都道府県で、利便性の高いエリアの医療機関・クリニック（特に産婦人科、小児科クリニック）にドナー登録施設を拡大するため、周知を実施。
- 随時、対面／オンライン説明会開催中
- 契約後初回問診前には、オンライン問診レクチャーを実施

#### ドナー登録施設状況

（2026.4.27時点）

- グレーの都道府県にはドナー登録施設がありません。
- ピンクは1カ所のみです。

（両バンク共通施設の重複、受入限定の施設を除きます。）



11

1

# 課題と施策③：認知度向上

## 国内認知度向上のために一般向け、医療従事者向け施策を実施中

### ◆ 一般対象施策

- 2022年3月16日～公式ウェブサイト開設 (<https://milkbank.or.jp/>)
  - 月間セッション数：7,982件 (2026/3/1～3/31)
  - 年間セッション数：136,364件 (2024年度 (11,364件/月))
- 2022年3月16日～Instagram開設 (@milkbank\_official.jp)
  - フォロワー数 : 5,147 (2026.3.31時点)
- 随時、母乳バンク施設の見学会を開催



### ◆ 医療従事者・研究者対象施策

- 2025年6月7日 **第8回母乳バンクカンファレンス**開催@日本財団ビル
  - 参加者数：約140名-7割以上の参加者が医療従事者 (医師、助産師、看護師)
- 随時、ドナー登録施設・ドナーミルク使用施設説明会を開催



## 【参考】自治体のお取り組み事例

- **東京都**（2025年度～）

- ①都内の「ドナーミルク使用施設」（NICU）に対し、母乳バンクに支払う賛助会費相当額を補助

- ②都内の「ドナー登録施設」に対し、1人問診・採血するごとに3,000円を補助

そのほか、都のメールマガジン「赤ちゃんファースト」での情報発信、母子健康手帳配布窓口へのチラシ設置など周知啓発支援

- **神奈川県**（2026年度～）

- ①県内の「ドナーミルク使用施設」（NICU）に対し、母乳バンクに支払う賛助会費相当額を補助

- ②県内の「ドナー登録施設」に対し、1人問診・採血するごとに3,000円を補助

そのほか、ポスター掲示や県内医療機関への登録施設へのご案内等、周知啓発支援

- **大阪府**（2026年度～）

府内のドナー登録施設としても登録する「ドナーミルク使用施設」に対し、母乳バンクに支払う賛助会員費相当額を補助

# CONTACT US

✉ [info@milkbank.or.jp](mailto:info@milkbank.or.jp)

☎ 03-5931-3695 (9:00-17:00)

